

電子メディア活用状況調査結果についての考察

平成23年6月実施

【現状】

- テレビの視聴時間やゲームの時間は、小学生は学年が進むにつれて増加する傾向にある。中学生は部活動や学習等の時間が増えるため、テレビやゲームの時間が頭打ちになると思われる。
- 携帯電話の所有率は全国平均と比べると低いですが、平成21年の同調査と比べると増加傾向にある。小学3年生で所有率が増えるのは塾通いとの関係が考えられる。また、中学1年生で所有率が増えるのは進級時のお祝い等、中学2年生以降では周囲の生徒の所有が影響を与えていると考えられる。
- 携帯電話は小学生では通話、中学生ではメールやネットでの利用が多い。小学生は家族との連絡、中学生は友人との交流で利用することが多いと考えられる。

【成果】

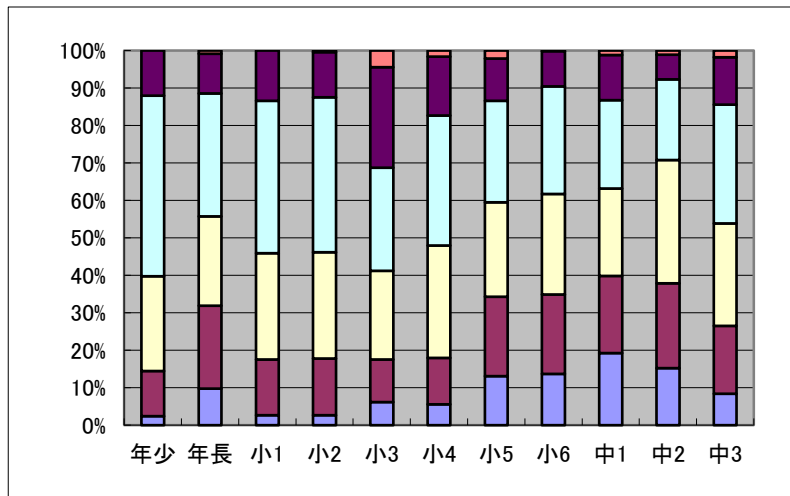
- 平成21年と比べるとテレビ視聴時間やゲームの時間が少ない（2時間以内）子どもの割合が増えている。小学4年生以下では、ややゲーム離れの傾向が見られる。
- 平成21年と比べるとテレビを長時間視聴している（3～4時間、4時間より多い）割合が低下し、時間を決めて視聴する子どもが増えたと考えられる。
- 平成21年と比べるとテレビやゲーム以外の時間に読書をする子どもの割合が増えている。
- メディアセレクト週間では、テレビを見る時間を減らすことで、家族の交流の大切さを再確認した家庭が多くみられた。

【課題】

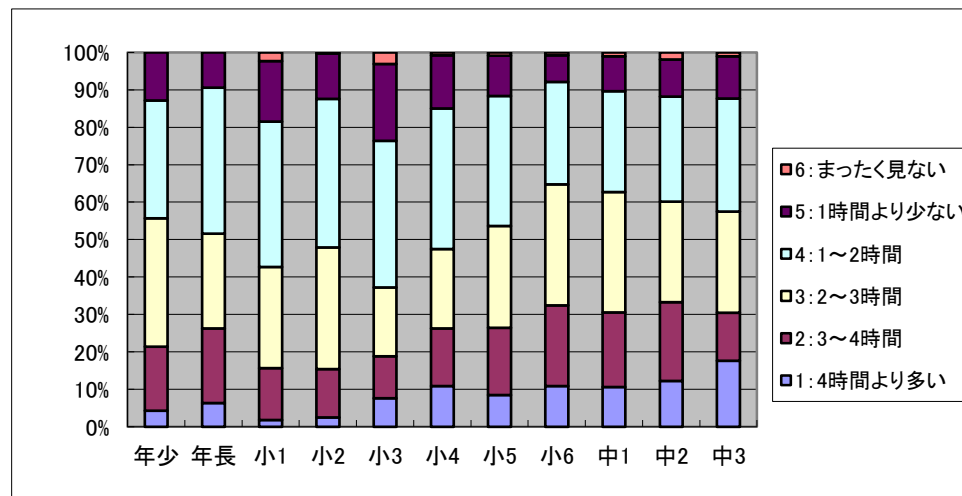
- テレビの視聴時間やゲームの時間が長い子どもについては、依存的な傾向がないか注意する必要がある。テレビの視聴時間は、2時間までを目安に減らすことが望まれる。そのためには、できるだけ早い時期からメディアとの関わりを意識する必要がある。
- 携帯電話やインターネットについては、与える時期やフィルタリングの利用、適切な活用法など家庭と学校が連携して取り組んでいく必要がある。特に与える時期については、本当に必要かどうかも含めて十分に検討することが望まれる。
- テレビやゲーム等の約束を決めている家庭の割合は、平成21年の同調査と比べてほとんど変化がなく、家庭によって状況が異なっている。ノーテレビ・ノーゲーム運動の取り組みを通して、家庭でのルールを設定を推進したい。その際、家庭、学校、地域が協力し地域全体の取り組みとなるよう工夫する必要がある。

問1 1日のテレビ等の時間

H21

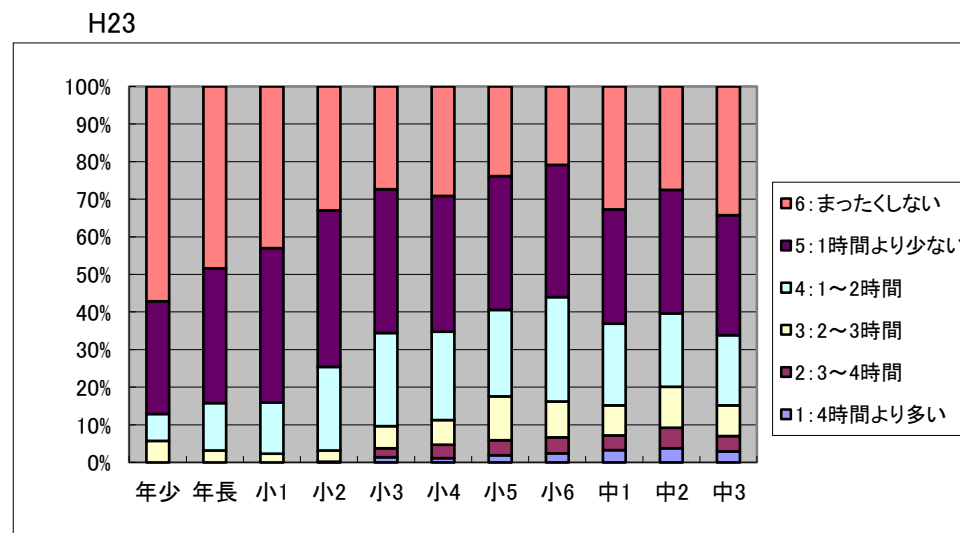
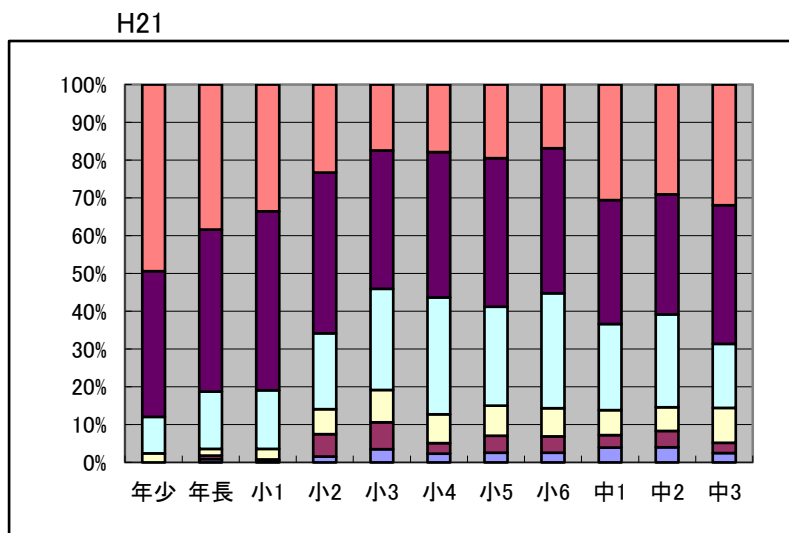


H23



- 平成21年と比べると平成23年では長時間視聴している(3~4時間, 4時間より多い)割合が低下し, 時間を決めて視聴する子どもが増えたと考えられる。
- 中学生では学年を追うごとに「2時間未満(まったく見ない, 1時間より少ない, 1~2時間)」の割合が増えている。
- 4時間以上視聴している割合は, 平成21年同様学年を追うごとに増える傾向にある。

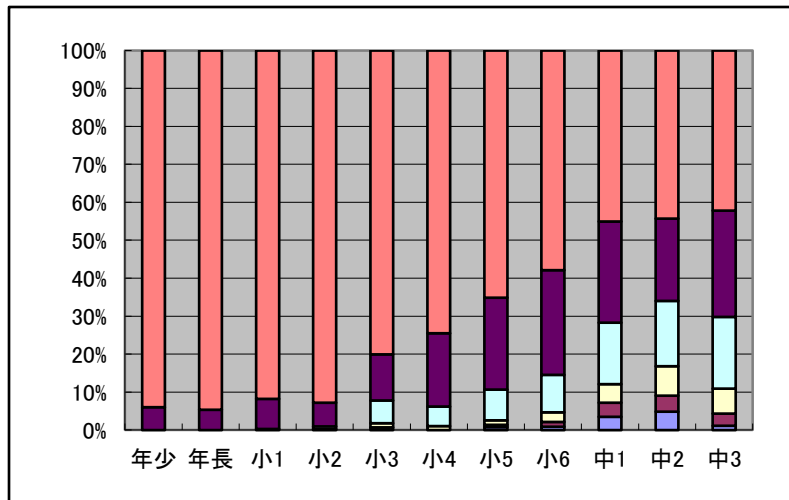
問2 1日のゲーム時間



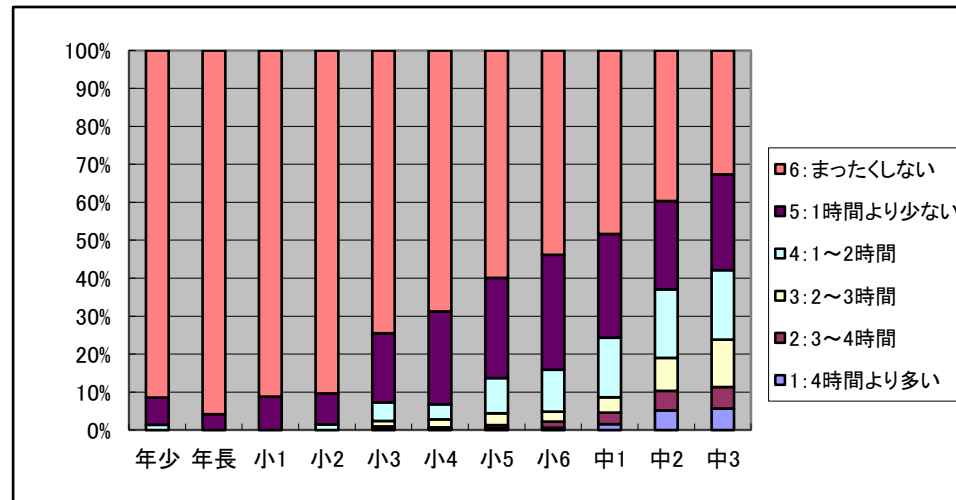
- 平成21年と比べると平成23年では幼稚園から小学4年生まで「まったくしない」割合が増えており、ややゲーム離れの傾向が見られる。
- ゲームの時間は小学2年生から徐々に増え始め、小学3年生から6年生までは、70%以上がほぼ毎日ゲームをしている。
- 小学5年生から中学生において、長時間ゲームをやっている割合は、前回調査と変わっていない。

問3 1日のインターネット時間

H21



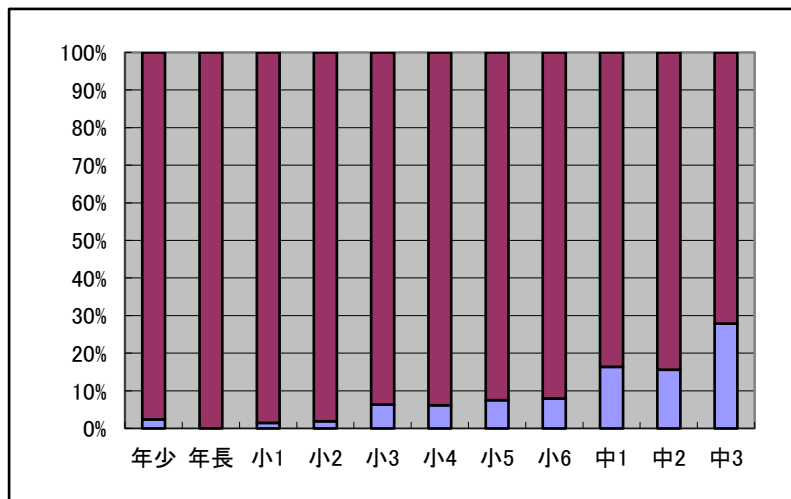
H23



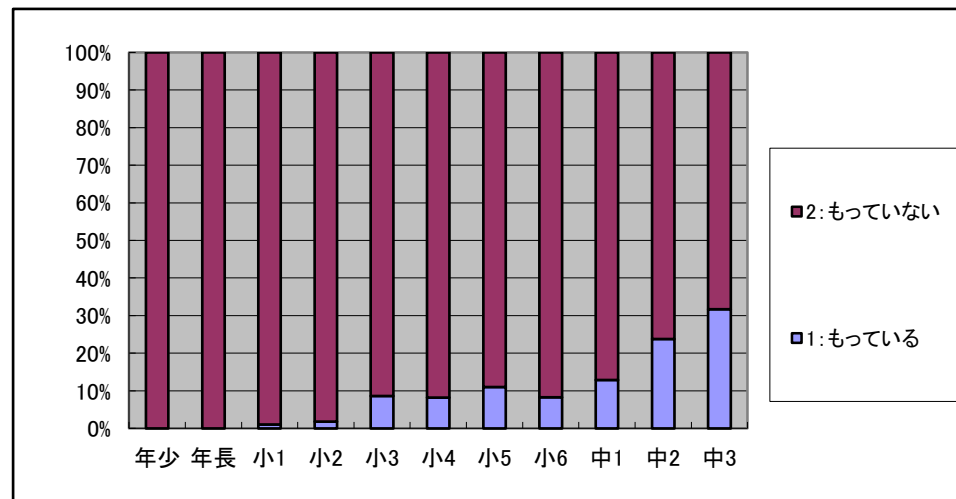
- 平成21年と比べると平成23年では日常的に利用している割合(まったくしない以外)が小中学生のすべての学年で増加している。インターネットを利用している割合は学年を追うごとに増加し、中学生の半数以上が日常的にインターネットを利用している。
- 特に小学4年生から中学生においては、1日3時間以上インターネットを利用している割合が増加している。

問4 自分専用の携帯電話

H21

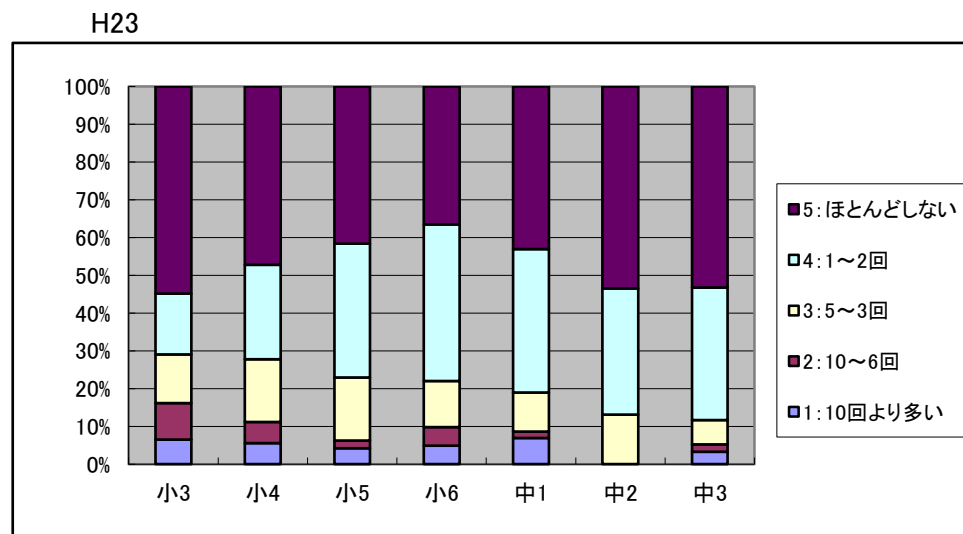
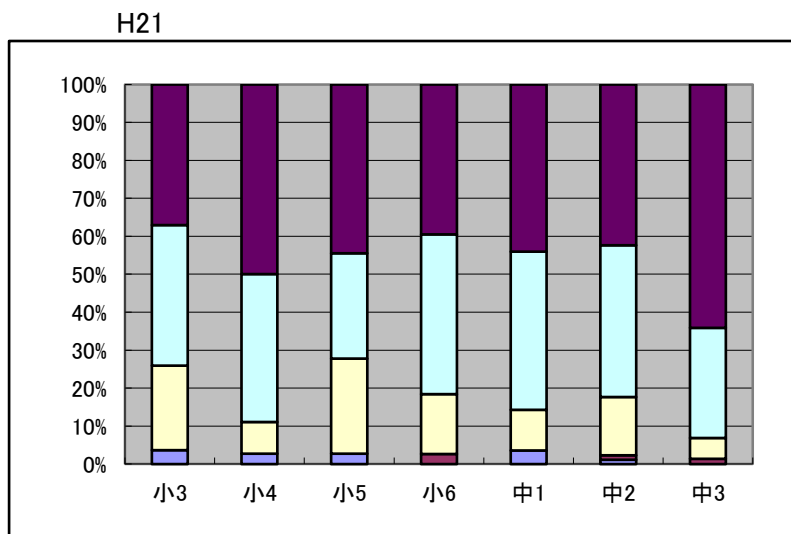


H23



- 平成23年の携帯電話の所有率は、平成21年と比べると増加傾向にあるが、小学生が1割未満、中学生が3割未満で、全国平均(平成23年2月の内閣府調査では小学生20.9%, 中学生49.3%)と比べると低い。
- 本市の携帯電話の所有率は、小学3年生と中学2年生の時に増えている。特に中学2年生の所有率は、前回調査と比較して大きく増加している。

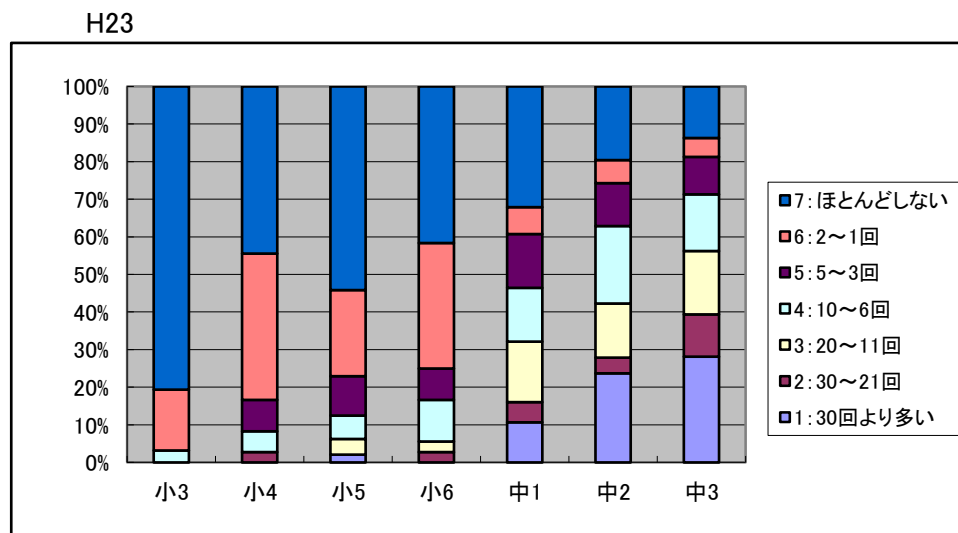
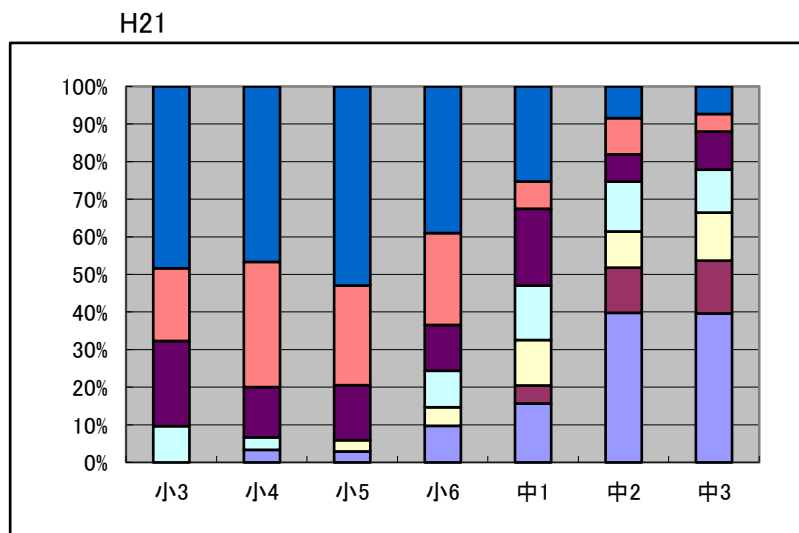
問5 1日の通話回数



※ 幼稚園年少から小学2年生までは携帯電話の所有率そのものが極めて低いため、掲載しない。

- 自分専用の携帯電話を所有している子どもの通話回数は、「ほとんどしない」「1~2回」の割合が70%以上である。
- 3回以上通話する割合は、学年が進むにしたがって減っている。

問6 1日のメール回数

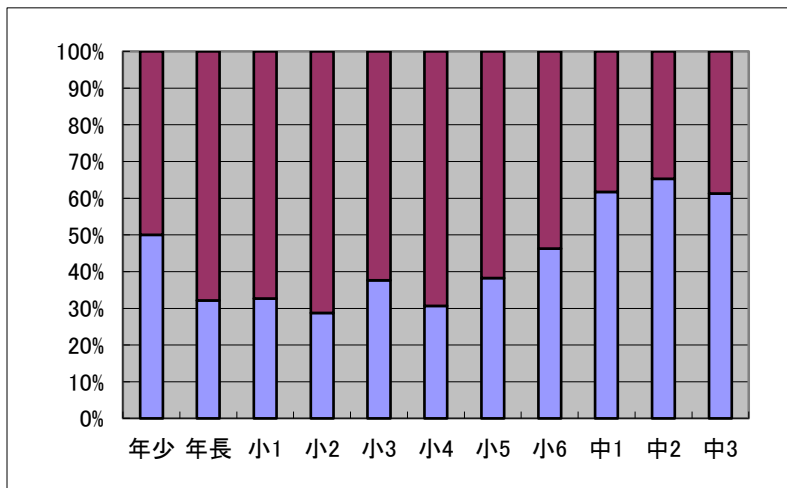


※ 幼稚園年少から小学2年生までは携帯電話の所有率そのものが極めて低いため、掲載しない。

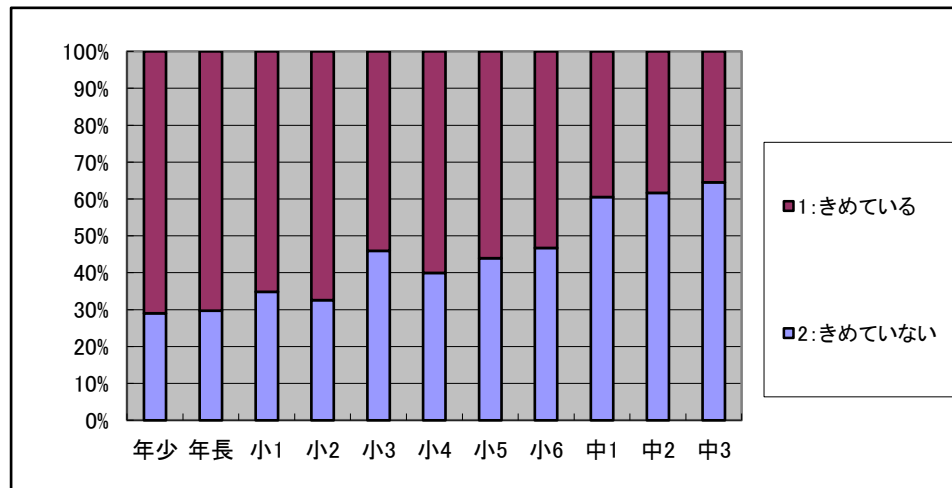
○ 平成21年に比べて平成23年では「ほとんどしない」の割合が増えている。自分専用の携帯電話を所有している小学生の40%以上、中学生の約20%が「ほとんどしない」であり、全国平均(平成23年2月の内閣府調査 小学生14.4% 中学生4.5%)を大きく上回っている。

問7 テレビ、ゲーム、携帯の約束を決めているか？

H21



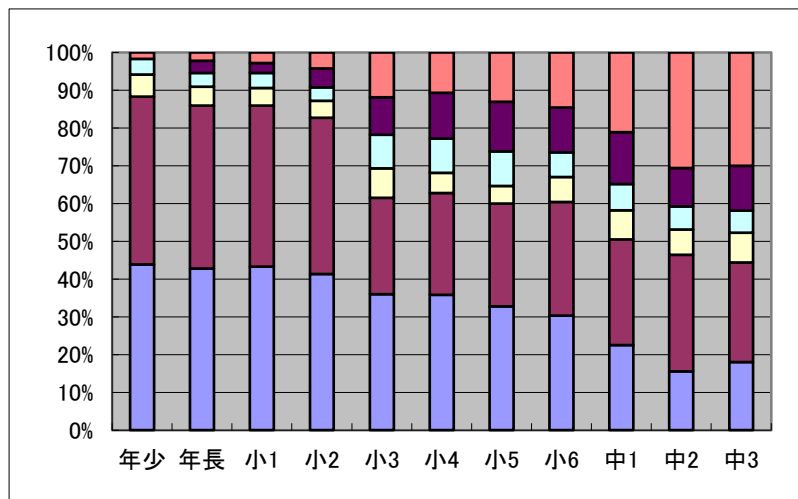
H23



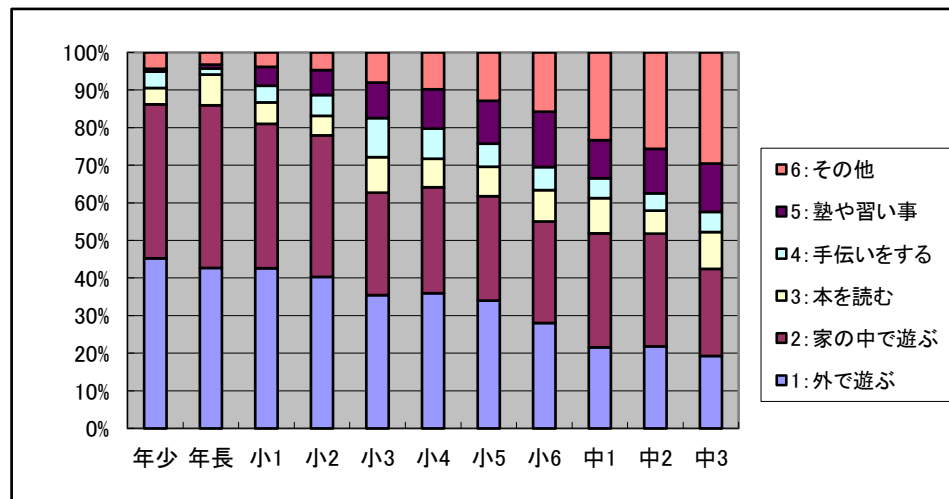
- 平成21年と比べてほとんど変化はない。
- 約束を決めている幼稚園児，小学生は50%以上であるが，中学生は40%以下である。学年が進むにつれ約束を決めている割合が減少している。

問8 テレビ、ゲームをしない時何をしているか？(2つ回答)

H21



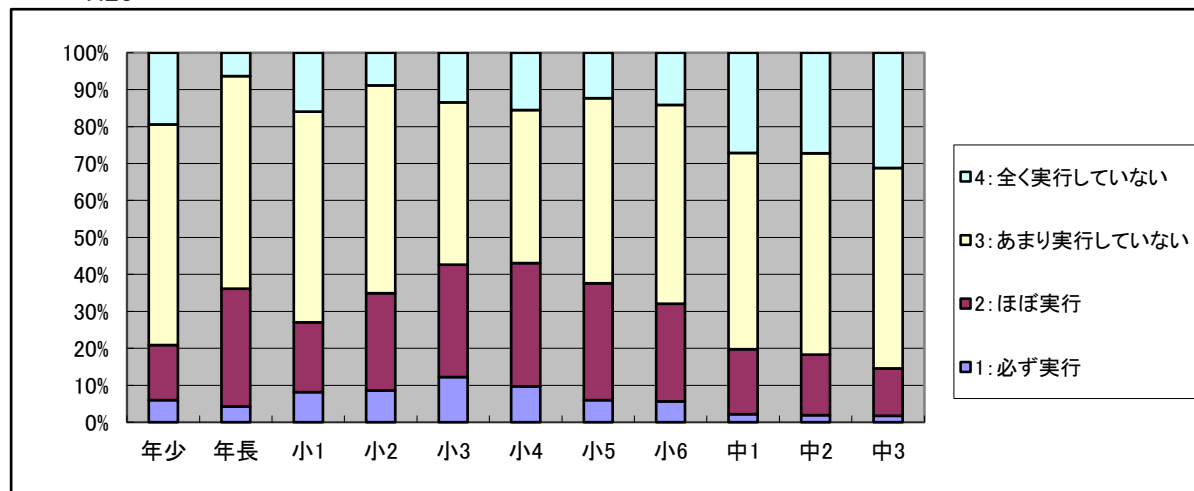
H23



- 平成21年と比べると平成23年では小学生・中学生で「読書」の割合が増えている。
- 幼稚園から小学2年生までは、ほとんど外遊びまたは家の中での遊びであるが、小学6年生から中学生にかけて、塾や習い事が前回調査と比べ増えている。
- 学年が進むにつれて、「その他(ごろごろしている、何もしていない、寝ているなど)」の割合が増え、中学3年生では約30%である。

問9 ノーテレビ・ノーゲーム運動への取り組み

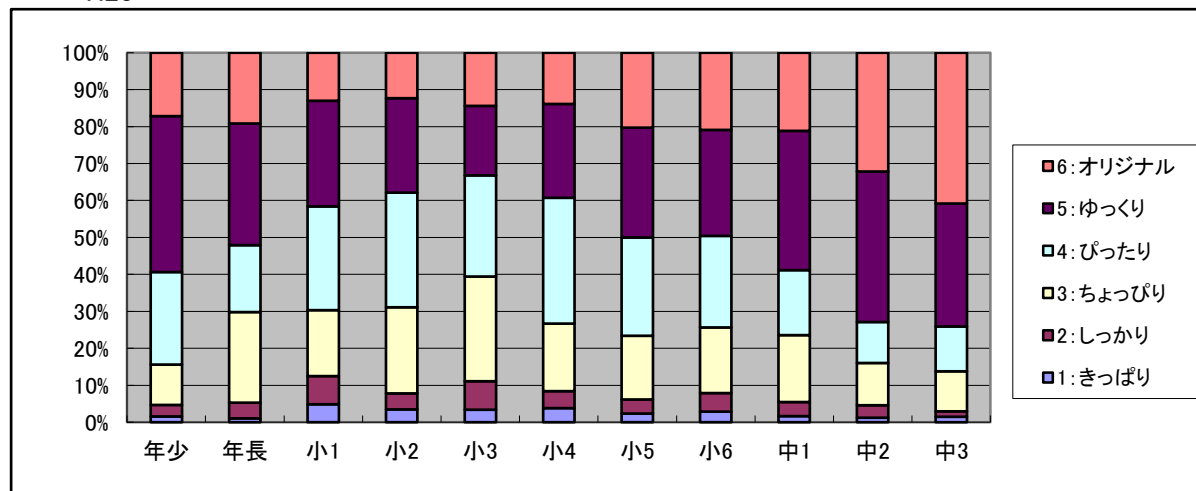
H23



- 「必ず実行」「ほぼ実行」の割合を見ると、小学3、4年生の40%をピークに、小学5年生から学年が進むにつれて減少傾向にある。
- 中学生の取組状況が20%以下と低い。

問10 メディアセレクト週間の取り組み

H23



- 小学生は、「ゆっくり」「ぴったり」「ちょっぴり」など、大きな違いがなく、それぞれのコースを選んでいる。
- 中学生は、「ゆっくり」「オリジナル」の割合が高い。

<各コースの内容>

- | | |
|---------|--------------------------|
| 6:オリジナル | 自分で取り組めそうな内容を決める |
| 5:ゆっくり | 食事中は、テレビを見ない・ゲームをしない |
| 4:ぴったり | 夜9時以降は、テレビを見ない・ゲームをしない |
| 3:ちょっぴり | テレビやゲームは、1日1時間まで |
| 2:しっかり | 家に帰ってきてからテレビを見ない・ゲームをしない |
| 1:きっぱり | 1日中、テレビを見ない・ゲームをしない |